

経営比較分析表（平成28年度決算）

埼玉県 桶川市

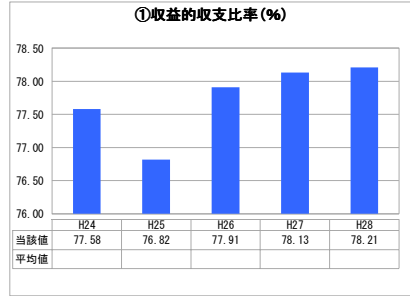
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	79.82	80.17	1,944

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
75,266	25.35	2,969.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
60,073	7.71	7,791.57

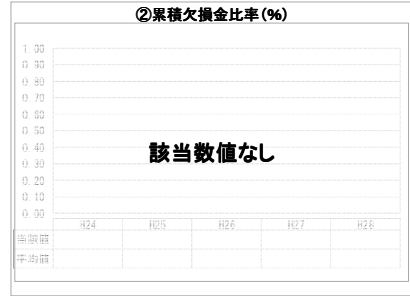
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

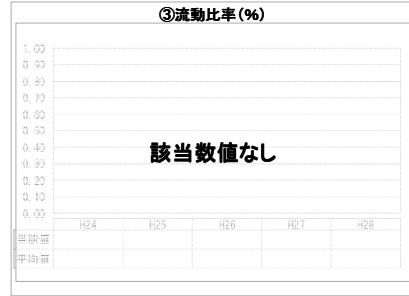
1. 経営の健全性・効率性



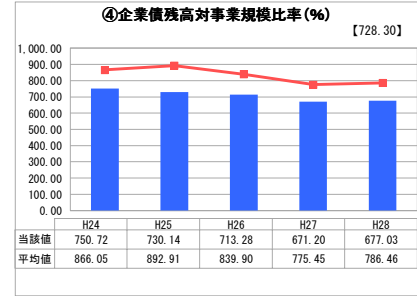
「単年度の収支」



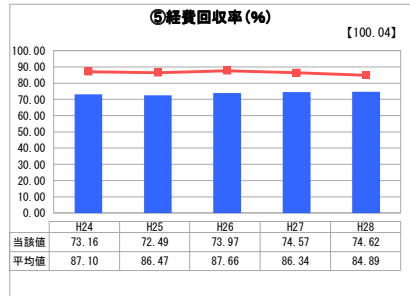
「累積欠損」



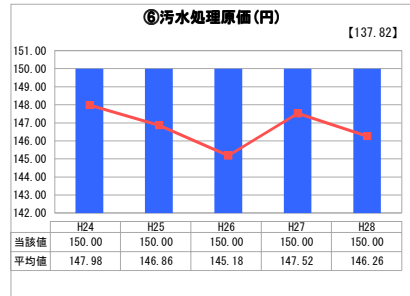
「支払能力」



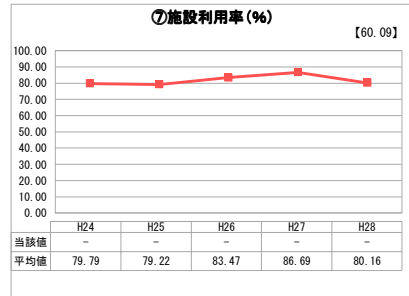
「債務残高」



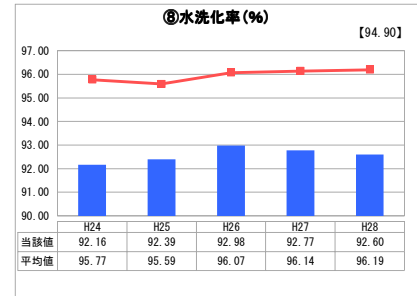
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

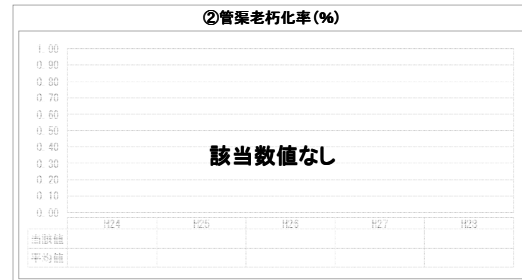


「使用料対象の捕捉」

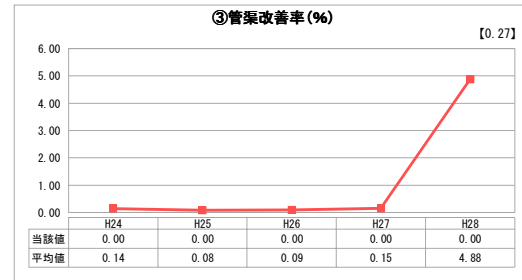
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①平成25年度の収益的収支比率が後年と比較して下回っている理由は、下水道使用料収入が伸び悩んだことと、算出分母となる地方債償還金が多くなったことが要因である。

④企業債残高対事業規模比率については、類似団体と比較すると現時点では良好であり、後年度への過度の負担はないと考えられる。

⑤経費回収率については、類似団体の平均値を下回り、整備を行った下水道施設が使用料収入へと適切に結びついていない状況である。今後は経費削減をより推進していくとともに、使用料収入向上に向けた施策（水洗化促進・有収水量増加・使用料改定）を実施していく必要がある。

⑥汚水処理原価については、平均よりも上回っている状況である。下水道施設整備開始より年数が経過した管渠の点検・改修などを今後実施していくことで有収水量を改善し、経費削減を図る必要がある。

⑧水洗化率については、平均値を下回っており、経費回収率の向上を図るためにもより一層、新規整備地域及び整備済み地域の未水洗化世帯に対する戸別訪問等を実施していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

当市は昭和48年度から下水道施設の建設を始め、管渠の標準耐用年数を超えている管渠はない状況であることから、管渠についての更新投資・老朽化対策はまだ行っていない。そのため管渠老朽化率は0%となっている。管渠よりも耐用年数の短い汚水中継ポンプ場については順次長寿命化等に取り組んでおり、改修を行っているため、今後は耐用年数を迎えることになる管渠について、有収率向上や不収水対策の観点からも長寿命化等を行っていくよう計画を策定していく予定。

全体総括

当市は、近隣の類似団体と比較して数値が著しく乖離している項目はなく、ほぼ同等の数値を示しており、経営状況が破綻していることはないと分析できる。しかしながら、経費回収率や有収率の低迷などの課題は少なくないことから、今後は平成31年度より地方公営企業法の財務適用を行い、各項目の数値状況及び今後策定予定である経営戦略を踏まえ、課題克服に向けた施策を実施し、さらなる経営健全化を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。